

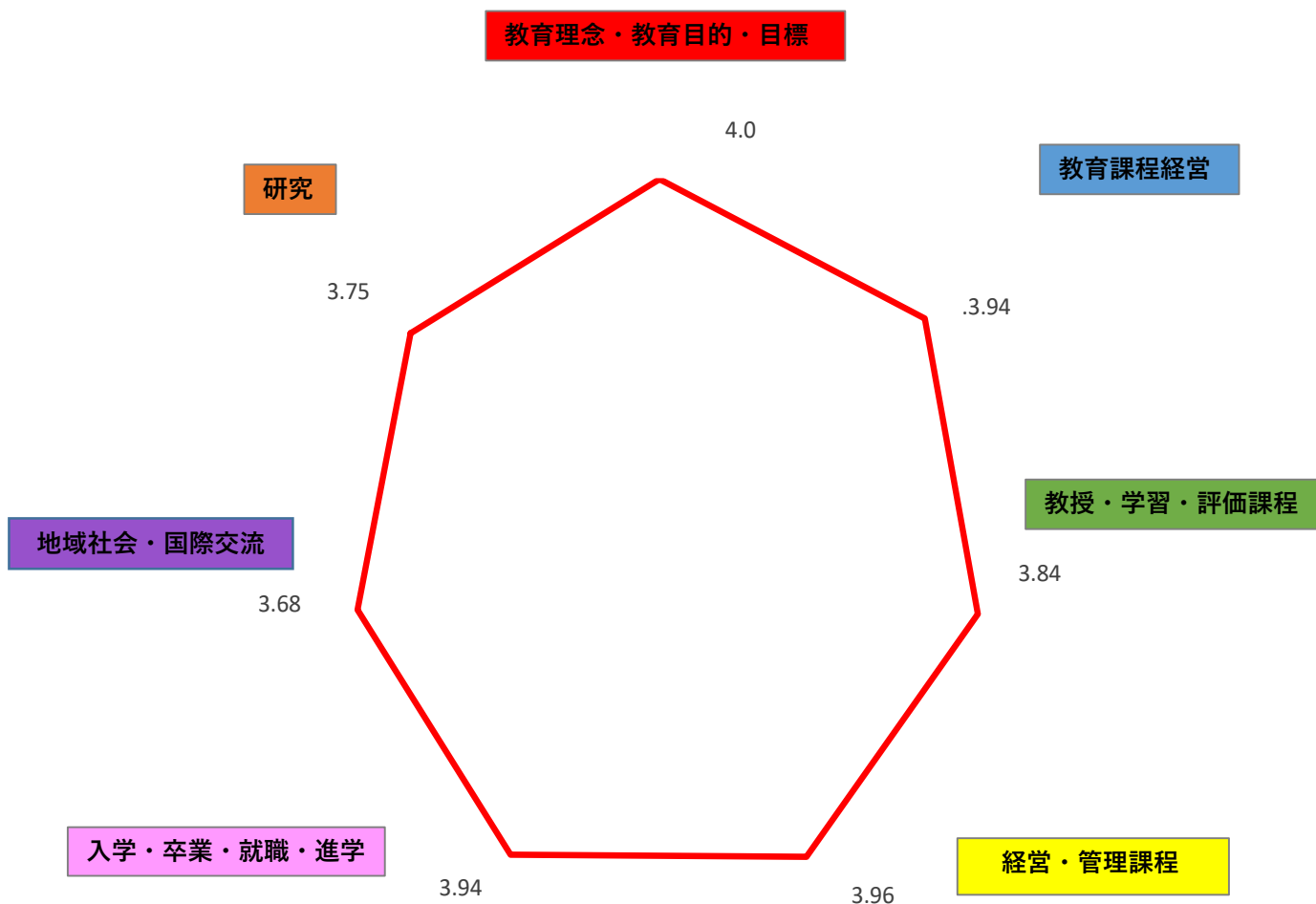
2025年度

三草会札幌看護専門学校

学校自己点検・自己評価報告

2026年2月20日

〈7領域における自己評価〉



分析方法

「A:そう思う」・・・4点

「B:ややそう思う」・・・3点

「C:あまりそう思わない」・・・2点

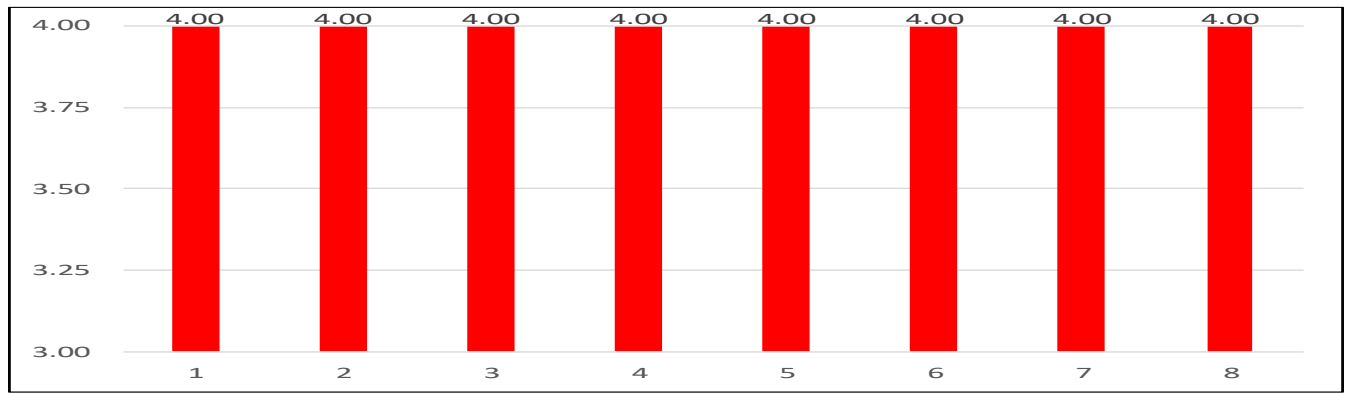
「D:そう思わない」・・・1点

無回答は平均値の分母から除外

回答数 教員 8名

教育理念・教育目的・目標

平均値が4.0と前年度と同じ「Aそう思う」評価である



	項目
1	教育理念・教育目的は、本校の教育上の特徴を示しており、かつ、法との整合性があるか。
2	教育理念・教育目的は、学生にとって学修の指針となるように具体的に明示され、実際に指針となっているか。
3	看護・教育・学生観について、教員の教育活動の指針となるように明示され、実際に指針となっているか。
4	本校の教育理念・教育目的が教育目標と一貫しているか。
5	教育内容の階層的関連性、配分の考え方が明示されているか。
6	教育内容は、設定した教育内容を網羅しており、かつ、卒業時の学生の到達度が明示されているか。
7	教育目標は、看護者としての能力を育成する側面と修学者としての成長を促すための側面から設定されているか。
8	卒業後の継続教育の考え方を示した上で看護基礎教育として、教育目標を設定しているか。

育理念、教育目的・目標

平均値が 4.0 と前年度と同じ「A そう思う」評価である

< 現状 >

三草会は「あることの尊さのアプローチ(一緒に治る喜びを分かち合おう)」が基本理念である。理念の核は「人間の尊厳」と「人間愛」である。

本校はこの 2 つの精神を基盤とし「人間の尊厳と人間愛の精神が学生ひとりひとりに根付き、変化し続ける社会の中で看護を実践できるための基礎的能力を養い、人々の健康と幸福な生活の向上を目指し、保健・医療・福祉の中で社会に貢献できる専門職業人の育成を行う」としている。この理念は設置者の精神を反映しており、学生にとって学修の指針となるように明示されており、教員の教育活動の実際の指針となっている。

また、本校ではどのような看護師を育てたいか、つまり卒業時の教育目的から看護師像を明確にして理念、目的が目標と一貫しており学校の特徴が反映されていると考える。

< 課題 >

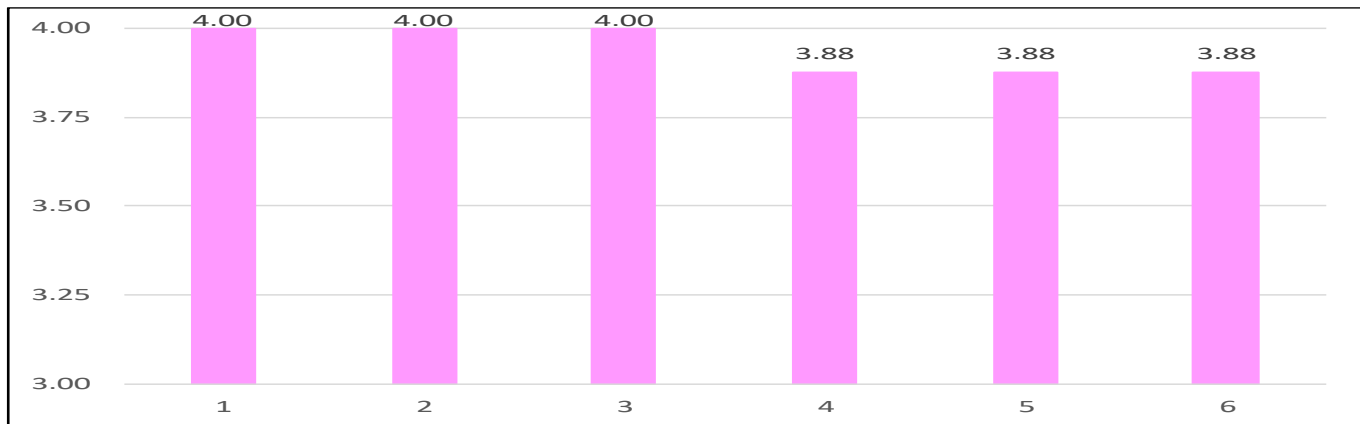
評価にあたっては、本校の教育理念の核である「人間の尊厳」「人間愛」の精神が根付いて卒業を迎えることができたのか、卒業時における学生の教育目的・目標の達成状況が指標となる。今年度 10 回生を迎え、評価の検討が必要となる。

< 改善策 >

教育理念・教育目的・目標は学生にとって学修の指針となることから、評価にあたっては、卒業時における学生の達成状況が指針となる。本校のカリキュラム評価と開発の考え方を示し計画立案し取り組む。教育の結果をどのように評価するかについての考え方、具体的な方法を示し、効率的、効果的な評価計画を作成していく。今年 10 回生を迎え卒業生達の評価をどのようにして捉えていくか、実施にあたっては評価委員を立ち上げ組織的に運行していく。

入学・卒業・就職・進学

平均値3.94と前年度3.92と同じ高い評価である



項目
1 本校の教育理念・教育目的との一貫性から、入学選抜の考え方(選抜基準等)を明確にしているか。
2 入学後の成績の推移等、入学者の状況を分析し、選抜方法の妥当性を検証しているか。
3 入学希望者を確保するため、積極的な募集を行っているか。
4 卒業時の到達状況及び就業・進学状況を分析し、教育理念・教育目的との整合性を検証しているか。
5 卒業生の就業先での評価を把握するために就業先との情報交換や調査ができる体制を整えているか。
6 卒業生の活動状況を把握し、統計的に整理して、教育理念・教育目的、授業の展開に活用しているか。

V.入学・卒業・就職・進学

平均値 3.94 で前年度 3.92 と同じ高い評価である

< 現状 >

就職進学支援の年間計画を立案し病院見学・インターンシップ、就職ガイダンス、就職リハール等のガイダンスを計画的に実施している 担当教員は校長・教務主任・担任が(進路相談教員)個別対応を随時行っている。 掲示板には、各施設からの紹介される見学会・インターンシップ日程表、就職試験日程表を掲示している。

オープンキャンパス 4 回、高校訪問、進学相談会、高校相談会など本校の PR 活動は継続している。今年度はオープンキャンパス参加学生が推薦入学者を占めている。

昨年度から取り組んだ中学生の総合学習の一環としての受け入れ及び地域住民へ一般学校開放を実施する。一般開放は僅かの人の来校ではあったが「良かった」との言葉も聞かれ継続していきたい。

< 課題 >

- 1.卒業時の到達状況及び就職進学状況を分析していく
- 2.入学者の選抜の考え方と教育理念・教育目的との一貫性、選抜の公平性、選抜方法の妥当性、受験者増への取り組み
- 3.広報活動への取り組み

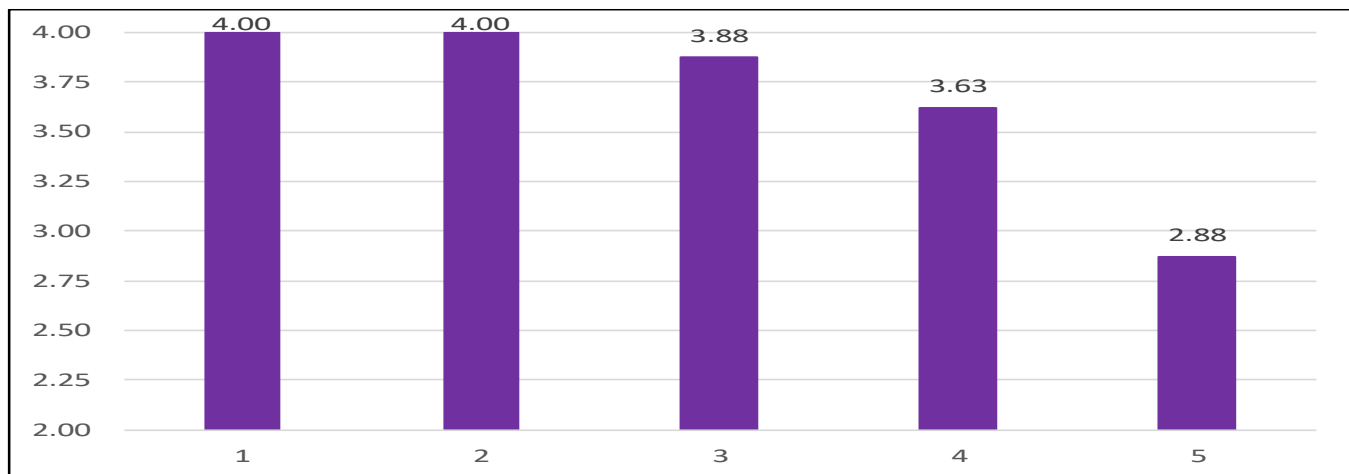
< 改善策 >

- 1) 進路選択の状況と教育理念・教育目的との整合性
- 2) 卒業時の看護実践能力及び卒業後の活動状況の評価
- 3) 入学試験選抜内容の検討
- 4) 広報活動の拡大

徐々に入学受験生の減少が表れている。北海道の看護師不足が到来しており、養成校として看護師の魅力、看護の素晴らしさなど地域に PR を広めていく。また、職業選択への導きとして中学生と東区住民を対象に学校開放を行い令和 6 年度より PR 活動を拡大していく。

地域社会・国際交流

平均値が3.68で前年度3.50と0.18ポイントあがっている



	項目
1	社会との連携にむけて、地域のニーズを把握し看護教育活動を通して、地域社会への貢献を組織的に行っているか。
2	本校の教育活動について地域社会のニーズを把握する手段、また地域社会へ情報を発信する手段をもち、かつ発信しているか。
3	地域の特徴を把握し、地域内における諸資源を本校の学習・教育活動に取り入れているか。
4	国際的な視野を広げるための授業科目を設定しているか。
5	国際的な視野を広げるための自己学習に適した環境が整っているか。

VI.地域社会・国際交流

平均値が 3.68 で前年度 3.50 と 0.18 ポイントあがっている。

< 現状 >

他の項目と比較すると低く特に国際交流は実施までには至っていない。

町内会の活動としては、看護の日に町内会にある公園のゴミ拾いをボランティア活動として年間計画として実施している。ホームページではこれらをリアルタイムな情報発信を行っている。令和4年度(改正カリキュラム)より、地域・在宅看護論演習で地域へのフィールドワークを実施している。昨年引き続き地域社会との交流体制の一環で、地域住民への一般開放日を設定し、健康相談、血圧測定をはじめ就労支援施設の施設の販売コーナーを設置して実施した。学習環境では校内・図書室のパソコン利用が出来る設備をしている。専門書蔵書の拡大を図り図書室で学習できる環境を整えており、学生は活用している。

< 課題 >

関係福祉施設及び地域の福祉施設等のボランティア活動への奨励

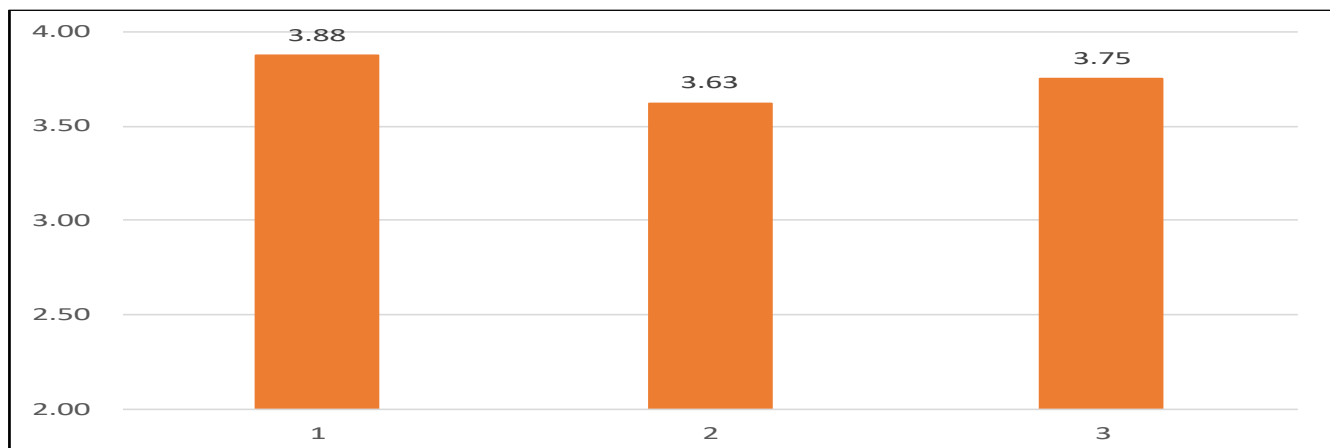
< 改善策 >

学生を地域活動に参加させることで、将来看護学生になる自分たちが社会のニーズに応える意識の高揚を引き続き図りたい。

- 1)地域社会と交流するための体制(地域社会への貢献とニーズの把握 資源の活用)
- 2)広報活動に情報発信の拡大
- 3)国際交流のための体制(学生・教員の国際的視野を広げるためのシステム)

研究

平均値が3.75であり前年度3.33とポイントがあがっている



	項目
1	本校には研究に価値をおき研究活動を教員相互で支援し合う文化的素地があるか。
2	教員の研究活動を保障(時間的・財政的・環境的)しているか。
3	教員の研究活動を助言・検討する体制が整っているか。

VII.研究

平均値が 3.75 で前年度 3.33 とポイントがあがっている。

< 現状 >

個人の研究活動までは至っていないが、自己研鑽のための研修・研究活動費は設けられており、各専任教員の学会参加は継続されている。校内研修委員係を組織に位置付け授業研究、模擬授業、授業評価、事例検討会、学会報告会の年間計画を立案し教員全員が実施し継続し、「私の学校自慢」の優秀賞授与により日常の教育実践の意義を教員間で共有ができ、個々の研究活動の糧になる事を期待したい。

< 課題 >

3項目すべてに「ややそう思う」3名記載があった。

< 改善策 >

1) 教員の研究的姿勢の涵養

教育課程経営

平均値が3.94で前年度3.84と0.1ポイントあがっている



II.教育課程経営

平均値が 3.94 で前年度 3.84 と 0.1 ポイントあがっている。

< 現状 >

シラバス、教育計画、学生便覧、学内実習・演習要項、臨地実習要綱・指導要綱・各看護学実習要綱・指導要綱の提示により、学生・保護者、実習施設に本校の3年間の教育課程の内容及び単位修得迄の過程を示している。各看護学担当教員は、毎年のシラバス作成にあたり内容の見直しを実施している。カリキュラム改正に伴い実習施設も拡大しており、本校の教育への理解を深め指導体制の協力を得ている

本校では、研修係を組織建てしており、新人教員は模擬授業による相互評価、教員間の授業研究・評価及び事例検討を年間計画として進めている。非常に個々の教員が教育実践力の向上に有効であるとの評価が挙げられている。個人の自己研鑽では毎年、専門看護学領域の学会・研修会に参加し、最近の知見や他校の教育実践報告を参考に講義・演習に取り入れて、課題に対する改善策を試行することは力量形成に役立っていると考える。

臨地実習指導の効果を得る手段と、本校の教育課程(学生理解)の理解を得る機会として、実習施設から看護学の講義を非常勤講師として依頼している。

< 課題 >

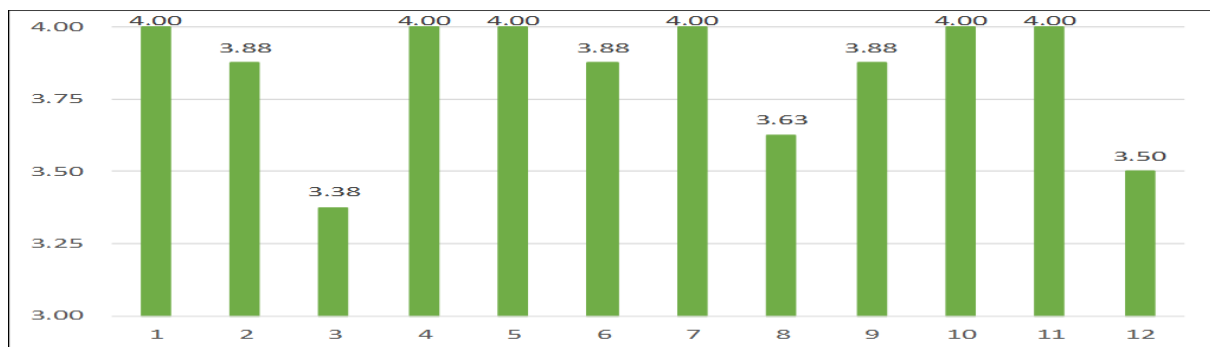
8の項目「授業準備のための時間をとれる体制を整えているか」の評価では「あまり思わない」の回答が昨年は3.0ポイントであったが、今年度は3.63ポイントで0.63増になった。自己の日常業務の配分の効果が見られる。引き続き現状を把握し教員が授業準備のための時間の確保に向けていく

< 改善策 >

教育課程評価は組織的に体系作りを行い運行していく。教員の授業準備のための時間確保に関しては、本来の授業や実習指導以外に事務教務も多く抱えておりその点の改善策として、非常勤教員(教員資格有)を採用し従来の教員が実施していた事務業務を担い、業務整理を継続的に行う。また実習指導教員を臨地実習での指導に限らず学内実習・演習の企画に任せ、専任教員と共同させ教育にあたらせることで専任教員の時間確保にむける。実習施設への指導体制の協力依頼は継続して行く。

教授・学習(講義・演習・実習)・評価課程

平均値が3.84と前年度3.98と0.14ポイント低下している



	項目
1	授業内容は、教育課程との関係において、学生のための授業内容として設定しているか。
2	授業内容のまとめりは、看護学の教育内容として妥当性のある内容となっているか。
3	授業内容と関連性において重複や整合性、発展性などが明確になっているか。
4	授業内容に応じた授業形態(講義・演習・実験・実習)を選択しているか。
5	授業展開に用いる指導技術(説明・発問・指示・演示・質問等)についての考え方を授業計画に明示しているか。
6	学生に対し効果的な教育・指導を行うために、教員間の協力体制を明確にしているか。
7	学生に対し効果的な教育・指導を行うために、実習指導者の協力体制を明確にしているか。
8	教員は、評価計画を立案、実施し、評価結果に基づいて、実際に授業を改善しているか。
9	学生に評価の方法について、特に単位認定のための評価基準と方法を公表しているか。
10	単位認定の評価は、公平性が保たれているか。
11	シラバスの提示や学習への指導は、本校全体として一貫性があるか。
12	シラバスの提示や学習への指導は、主体的な学習への動機づけと支援になっているか。

III 教授・学習(講義・演習・実習)・評価課程

平均値が3.84で前年度3.98と0.14低下している。

< 現状 >

毎年授業計画に沿って進めているが、非常勤講師の変更や講義時期の希望等により、授業計画の差し替え等、学生へ通達しながら進めている。授業形態は対面授業を主に実施している。授業計画立案では、各看護学の単位認定者、それぞれの科目担当教員の教材観、学習観、教育観や看護観を基に実施している。又、授業内容に応じた授業形態の選択・指導技術の工夫・教材教具の活用と開発の展開を選択して実施している。教授・学習・評価過程は、学生、教育内容、教員の3本柱によって成り立つ事から、入学時に授業評価の考え方をガイダンスし承諾を得て、授業評価を実施している。学べたこと、難しかった内容、講義に対する意見」などを無記名で記載している。教員も授業計画の目標達成の自己評価とフィードバックを実施している。学内実習・演習は、担当教員とリフレクション面談の時間を設定しており、評価表のすり合わせを中心に課題の明確化をすることで教員と学生間の共通確認ができ、看護技術の完成度も早く得られている。

臨地実習では、指導者・学生・教員3者が共通の評価表を持ち寄り、3者評価を行っている。研修委員会を中心に授業研究、模擬授業、事例検討会、学会報告会は継続している。特に新人教員には3観を始め授業計画の指導から模擬授業、授業参観までの指導期間を設け進めている。この事は教員の教育活動の自信に繋がると考え継続していきたい。

< 課題 >

授業評価が、果たして教員達の求める、知りたい内容となっているのか。その評価結果が活かされているのか。10回生を迎え見直していく必要がある。

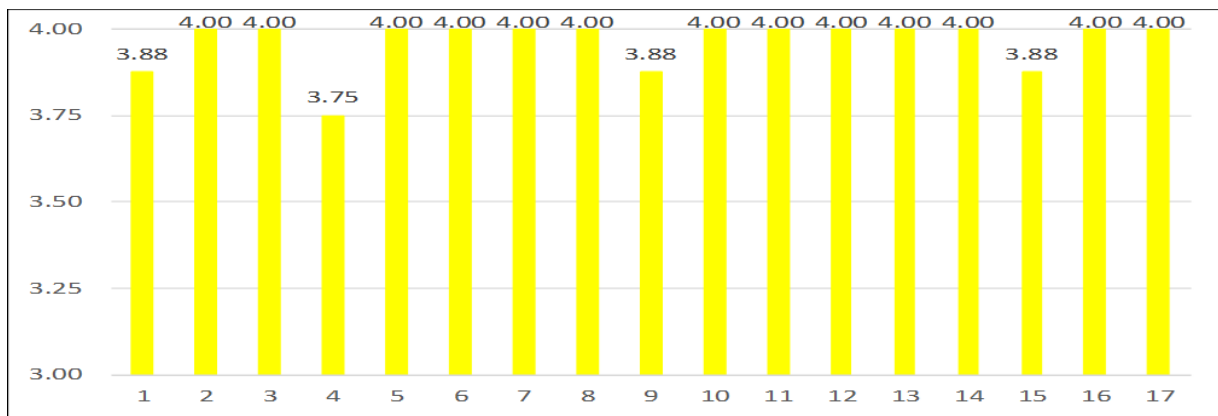
< 改善策 >

3年間の教授・学習・評価課程の継続評価を行い課題の抽出・改善策を明確にしてカリキュラムに反映していく。教員個々に抱えている課題への対応も継続していく。

個々の授業評価を振り返り授業に反映できていくためには、10回生を迎え見直していく必要がある。

経営・管理課程

平均値が3.96と前年度と同じ評価となっている



項目
1 設置者と管理者の意志・指針についての考えが示されており、教職員はそれを理解しているか。
2 組織体制は、教育理念・教育目的を達成するために意思決定のシステムや権限、役割機能が明確になっているか。
3 組織構成員の意思の反映や決定事項を周知できるような体制を整えているか。
4 教職員は、本校がどのような財務基盤によって成り立っているかを理解しているか。
5 それぞれの観点から財政についての教職員の意見を経営・管理課程に反映できるようになっているか。
6 施設・設備は医療・看護の発展や学生層の変化に合わせて計画的に設備改善しているか。
7 教職員の倫理規定が明確になっているか。
8 教職員の資質の向上についての考え方と対策は、教育理念・教育目的の達成と整合性をもっているか。
9 学生及び教職員にとっての福利厚生施設・設備は、学生生活や教職員の職務が円滑に遂行できるように設備されているか。
10 危機管理マニュアルを策定し、それに基づき防犯・防災(非難)訓練を行うなど、安全確保の体制を整えているか。
11 健康管理担当者を設置し、学生の健康管理を支援するための年間計画を立案・実施・評価を行っている。
12 学生が入学後に学修を継続できる支援体制を多角的、かつ学生が活用しやすいように整え、実際に学生生活の支援になっているか。
13 教育・学習活動に関する関係者(保護者等)へ情報提供を行うことによって、その協力支援を得ているか。
14 広報活動は、看護者を養成する機関として、その存在を十分にアピールし、かつ社会的説明責任を果たす内容と方法になっているか。
15 本校の運営においては、設置者の将来構想の下に運営の中期・短期計画、年間計画を立案し、実施・評価をおこなっているか。
16 自己点検・自己評価の体制を整え、学校評価として運用しているか。
17 評価機能は、カリキュラム運営、授業実践にフィードバックし、教育理念、教育目的、教育目標を維持改善するものとなっているか。

IV.経営・管理課程

平均値が 3.96 と前年度と同じ評価となっている

< 現状 >

学校経営の道標として校長は、学校運営方針、学校経営・管理方針及び学校運営重点目標を示している。学校関係者評価会議を行い、自己点検・自己評価報告に関する評価・意見が出された。内容に関しては、ホームページで公表している

昨年度の項目 5.「それぞれの観点から財政についての教職員の意見を経営・管理過程に反映できるようになっているか」では「C」あまりそうは思わない」の評価が「B」になっている。

< 課題 >

入学生の減少に伴う経営問題がある

< 改善策 >

- 1) カリキュラム評価の準備・企画・運行を計画的に進める（カリキュラム改正と共に）
- 2) 広報活動及び入学試験に関する検討
- 3) 学生生活の支援と教材教具の点検と補充
- 4) 年度予算から学校運営経費に係る見直し
- 5) 開校 10 年目を迎え運営の目標の見直し